

令和3年4月1日
校長 森 孝

令和3年度 杉並区立堀之内小学校経営計画

杉並区の教育ビジョン2012

共に学び共に支え共に創る杉並の教育

いいまちはいい学校を育てる 学校づくりはまちづくり

「社会に開かれた教育課程」及び「杉並区教育ビジョン 2012」に示された目指す人間像を具現化するために、学校・保護者・地域が一体となって連携・協働し、心身共に健康で主体的に生きる児童の育成を目指します。

◎杉並区教育ビジョン2012の最終年としてのまとめ、並びにさらに先の教育を見据えて
地域と協働する学校の創造

- ・地域で学ぶ、・地域を学ぶ、地域の人から学ぶ、地域に役立つ
質の高い教育の推進
- ・学びの構造転換、豊かな心の育成、一人1台のタブレットPCの活用、健康教育、
特別支援教育の推進
- 力のある教師の育成
- ・教員の指導力の向上、
学校・学年経営方針や教育活動の情報発信の充実

堀之内小学校の教育目標

◎考える子ども ○やりぬく子ども ○助け合う子ども

仲間を大切にし、互いに尊重し、支え合いながら
主体的で豊かな学びを創造する子を育てます。

すべての基本としたいこと

【主役は子供】 子供の思いを大切にし、子供の主体性を高めていく学校

【大事なのはどう学ぶか】 結果だけでなく、過程での子供の学びや成長を大切にする学校

【あたたかい人間関係の構築】 他者を尊重し、思いやりの心を大切にする学校

【コミュニケーションの第一歩】 大人も子供も自ら進んであいさつを交わし合える学校

そして、子供、教師、誰にとっても「楽しい」学校づくりに取り組みます。

学校として、

変わってはいけないこと、変わらなくてはいけないことを

しっかり見極めながら、進化し続ける学校づくりを進めていきます。

★新型コロナウイルスへの感染防止策など

- ・マスクの着用、3密を避ける工夫など、子供たちの安全・安心のために新しい学校生活様式の徹底を図る。
- ・制約が多い中でも、子供たちが学校生活を楽しいと感じられるよう、行事の工夫なども含めメリハリのある学校生活が送れるよう工夫をする。

☆学校目標を達成するための基本方針と手だて

(1) 主体的で豊かな学びの創造

- ◎どの教科においても個の学びを大切にし、誰もが主体的・意欲的に参加できる授業をめざします。
- 基礎・基本の確実な定着を図りながら、児童自らが課題をもって主体的に追究することを通して、思考力、言語力の向上を図るための教育を進めます。

【そのために】

○教師が教える授業から、子供が学ぶ授業への転換

- ・これまでの指導観・授業観からの教師の意識改革を進めます。
- ・教師の役割を見直し、個々の学びの過程を見取り、適切に評価し、児童の主体的な学びを支える指導や助言をするよう努めていきます。

○ICTの積極的な活用

- ・個別最適な学びを支える大切なツールとしてタブレットPCを活用していきます。
- ・学び方の幅を広げ、思考を支えるツールとして、さらには個々の考えを共有するツールとしてICTの積極的な活用を進めます。
- ・意見を交流し、協働的な学びを進めるためのツールとしての有効活用をしていきます。

○学び残しの解消

- ・タブレットPCの活用による個別最適な学びの具現化によって個々の課題に応じた学びを推進する。
- ・算数科ではレディネステストなどの客観資料による少人数のグループ分けなど、子供の実態に応じた指導ができる体制を整えます。

○カリキュラムマネジメントの推進

- ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえ教科横断的に進めます。
- ・教育内容の質の向上に向けて・・・PDCAサイクルを確立していきます。
- ・教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源などを地域等の外部資源を効果的に活用します。

○小中一貫教育の推進

- ・互いの授業を見合い、その後の意見交流などを通して相互理解を一層深めていく。
- ・学校や地域の行事での協働を小中関係各校との連携を更に深めると共に、「協働」の展開につながるよう、各教科の系統性の重視や学びの連続性を確保することで、より質の高い小中一貫教育を進めます。

○幼保小連携の推進

- ・スタートカリキュラムを充実させ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を一層推進します。

(2) やさしさと思いやりの心の醸成

◎大切にしたい4つの“あ” 「愛情」「安全・安心」「あいさつ」「ありがとう」

愛情、優しさや思いやりあふれる関わりができる、安全に気を付け、互いに助け合いながら安心して学校生活が送れる、気持ちのよいあいさつができる、ありがとう、感謝の気持ちを忘れずにいる学校づくりを目指します。

○インクルーシブ教育の推進

偏見や差別の心をなくし、誰にでも誰とでも同じように接することができる子を育てていく体験を重視した学習活動を計画的に進めます。

○児童一人一人のかけがえのない命を大切にするとともに、人・もの・自然とのふれあいを通して、自他の命の大切さを考え、他を思いやり、他を尊重し、自己有用感をもてる子を育てる教育を進めます。

【そのために】

○「協働」を意識した取り組み

- ・温かい人間関係を築くために様々な場面で「協働」を意識した取組を進めます。
- ・たてわり班活動などの異年齢集団での「協働」を通して、他を思いやる心などを育てていきます。
- ・地域の行事などの機会も積極的に活用し、様々な人との交流を大切にします。

○自他を大切にする教育の推進

- ・人権尊重の理念の基、いじめ・不登校〇をめざし、自分も他の人も大切にできる子を育てていきます。

○一人一人を大切にする

- ・自他の違いを認め、互いの個性を尊重し合える子供を育てていきます。
- ・特別支援教育を推進する中で、一人一人の個性を尊重しようとする学校風土を築きます。

○道徳の時間の充実

- ・道徳を通して、自己の生き方を考え、自己の生き方の指針をもてる子供を育てていきます。
- ・道徳の時間を軸として、道徳性を養いながら友達を大切にして力を合わせて活動できる子を育て、いじめなどのない思いやりあふれる学校づくりを進めます。

(3) 心と体の健康の増進

◎体を動かすことの楽しさを伝え、実感させながら運動を習慣化していくとともに、食事や睡眠などの生活習慣と健康な体との関係や心と体の関係などを考えさせながら、自らの健康に关心をもって、その増進に努める子を育てます。

【そのために】

○運動の日常化

- ・新型コロナウイルスの感染防止策を講じながら、運動の日常化につながる運動遊びの紹介などの新たなチャレンジを進めます。
- ・長縄週間などの取組を通して、体を動かすことの楽しさを味わわせ、体力の向上を図ります。

○体育科の授業の充実

- ・週3回ある体育科の授業を貴重な運動の機会と捉えて、授業の工夫と改善を進めます。
- ・十分な運動量を確保し、友達と協力し合いながら運動をする楽しさを十分に味わわせながら、運動の大切さや運動し続けることの大切さを学ばせていきます。

○オリンピック・パラリンピックの推進

- ・オリンピック・パラリンピック教育では、5つの資質の育成を踏まえた様々な取り組み（4×4の取組）の更なる充実を進めます。
- ・グローバル社会に対応できる豊かな国際感覚を養う教育を進めます。
- ・運動への興味・関心を高めるためアスリートとの交流などを進めていきます。

○健康教育を充実させます

- ・給食の時間や家庭科の学習とリンクさせた食育の充実、保健指導とも関連づけながら健康教育の充実を進めていきます。

○心の健康を大切にします

- ・教師と子供、また子供同士が良好な関係を築き、悩みや困ったことなど一人で抱え込み、誰にでも話せる学校づくりを進めます。
- ・S Cなどと連携し、様々な子どもの悩みなどへ対応できる体制を整えます。

(4) 家庭・地域とともに歩む

○「家庭・地域・学校のつながりを重視した、共に支える教育」を進めていきます。

★新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じながら、状況に応じて工夫して活動していきます。

【そのために】

○家庭・地域に開かれた学校づくり

- ・地域に開かれた学校、家庭・地域と信頼関係で結びついた学校、地域と協働し地域とともに歩む学校づくりを進めます。
- ・来年の90周年に向けての取組などを通して堀之内小学校小の地域の中での役割を考え、その役割を一層充実させるよう努めます。

○地域を生かした教育・地域との協働の推進

- ・地域の人々、施設、自然や文化との関わり合いを大切にし、地域の教育力を生かした学習活動の工夫を進めます。
- ・学校運営協議会、学校支援本部との連携を一層充実させ、子供たちが安全に安心して通える学校づくりを進めます。

○家庭・地域への発信

- ・開かれた学校を目指して保護者・地域への情報発信・収集を積極的に行っていきます。

(5) 力のある教師が育つ学校

◎教師自身が心も体も健康で、学び続け、進化し続けます。

【そのために】

○指導力の向上を図ります

- ・主体的・対話的で深い学びを支えるための教師の指導観の意識改革を図ります。
- ・子どもたちの確かな学力を保証するため、教材研究の充実に努めます。
- ・校内研究にとどまらず、内外の研究会、研修会から学び、指導力の向上に取り組みます。
- ・現状に甘んじることなく、常に学ぼうとする姿勢をもち続けます。

○プロとして

- ・教師の話術を磨きます。(話は短く、指示は明確・的確に)
- ・子どもをよく見て、よく話を聞いて、児童理解に努めます。

○教師の心と体も健康に

- ・ライフ・ワーク・バランスに配慮し、組織を生かした取り組みにより個人の負担を軽減するなど働き方改革の推進を図り、教師自身が子供たちの前でいつも心も体も健康でいられる環境を整えます。

○子どもをよく見ている教師

- ・「見逃さない」「見落とさない」指導を目指します。
- ・いじめや不登校の早期発見、未然防止のために子供の小さな変化も見逃しません。